

眞庭市医師会報



目 次

◇新年のご挨拶	1	◇苦行！！ 42.195km	16
◇理事会報告	3	◇受賞者の紹介	19
◇私の小さな旅 —吉備の中山磐座巡り—	11	◇会員の異動	20
		◇編集後記	21

138号

1月号

2020

新年のご挨拶

真庭市医師会長 金 田 道 弘



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

真庭市医師会は、旧真庭郡医師会が1919年（大正8年）の帝国議会での医師法改正を受け法人格を持った地区医師会

として誕生して以来、おかげさまで本年101年目を迎えました。ひとえに皆さまの長年にわたるご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、わが国の少子高齢化・人口減少を、安倍総理は「国難とも呼ぶべき危機」と表現しました。官邸では、安倍総理を議長に人生100年時代を踏まえて「全世代型社会保障検討会議」が現在協議進行中です。厚生労働省は、地域医療構想、医師の地域偏在対策、医師と医療従事者の働き方改革を三位一体で推進するとしています。医療界は大変革時代を迎えてます。

日本の人口ピークは2010年頃でしたが、真庭ではそれより60年も早く1950年頃すでに人口ピークを迎えており、私たち真庭は人口減少新時代の最前線に立っています。地域が存続するためには地域医療の継続が不可欠であり、医療機関の存続には地域の継続が不可欠です。将来にわたり持続可能な医療提供体制を目指し、地域医療構想調整会議が真庭圏域をはじめ全国各地で開催されています。

ところで、真庭市は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた優れた取組を行う都市として全国29都市の「SDGs未来都市」に

選定され、持続可能な社会を目指し太田昇真庭市長を先頭に積極的に取り組んでいます。昨年10月27日日曜日「真庭SDGs円卓会議結成大会」が真庭市久世エスパスホールで開催され、藻谷浩介氏の『SDGsと「里山資本主義」真庭の挑戦』と題する基調講演に引き続いて、真庭市内の各分野の代表者約10名がSDGsの取組についての抱負を発表しました。真庭市医師会もSDGsパートナーの一員として円卓会議に参加しました。



真庭 SDGs 円卓会議結成大会(真庭市提供)

私は、冒頭に将来にわたり持続可能な真庭の医療提供体制について考える上で重要と思われる以下の3つの視点について述べました。

- ①真庭市は全国よりはるかに早く人口減少時代を迎えており、新時代の最前線に位置していること。
- ②真庭市の全就業者のうち医療・福祉で働く人は製造業について2番目に多く、医療機関には産業として雇用の面からも重要な役割と責任があること。
- ③真庭市の医療機関の大部分は民間医療機関であり、医療機関の健全経営なくして地域医療の存続はなく、地域医療の崩壊は即ち

地域の崩壊に繋がりかねないこと。

次に、これら3つの視点から真庭の医療機関と地域医療が将来にわたり持続可能であるための処方箋として以下の2点について述べました。

- ①全国的に入院受療率が減少し在院日数が短くなっている、加えて人口減少が進む真庭では病床数の適正化が求められること。
- ②効果的で効率的な医療提供体制を将来にわたり持続可能なものにするためには、医療機関同士の一層の機能分化と連携が欠かせないこと。

私たちに今問われていることは、さらに地域の人口が減少しても将来にわたり医療機関が存続し地域医療と地域が継続できる仕組みを、地域毎に築くことができるかどうかです。

真庭市医師会が「県内で最も纏まりが良い医師会」として以前から高く評価されている理由は、私たちの先輩方が100年かけて綿々と築いてこられた素晴らしい組織文化と、真庭地域の皆さまのあたたかく逞しい伝統的地域文化があったからこそと考えます。

私たち真庭市医師会は、真庭地域の皆さまのご期待にこれからもお応えするために、県下の基幹型高次医療機関と連携し、真庭地域の行政、消防救急、歯科医師会・薬剤師会・看護協会・介護施設等の皆さまとの連携と多職種協働を一層推進し、将来にわたり持続可能な新時代に相応しい医療提供体制を目指します。

皆さまの日頃のあたたかいご支援に心より感謝を申し上げ、新年のご挨拶といたします。